

コード No. 18645

**Anti-Human  
14-3-3  $\eta$  Protein Rabbit IgG Affinity Purify**容量 : 100  $\mu$ g

はじめに : 14-3-3 タンパク質は細胞内に豊富に存在する分子量約 28kDa の二量体タンパク質で、酵母や植物からほ乳類に至るまで高度に保存されたアミノ酸配列を持っています。

14-3-3 タンパク質は7種の isomer として、 $\beta$  (ベータ),  $\gamma$  (ガンマ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\zeta$  (ゼータ),  $\eta$  (イータ),  $\sigma$  (シグマ),  $\tau$  (タウ)が存在し、それぞれ、細胞内でのシグナル伝達に深く関わっているといわれています。

また、14-3-3 タンパク質は、Creutzfeldt-Jakob 病 (CJD)患者の脳脊髄液に著明に増加するタンパク質として注目されています。さらに、CJD 患者だけでなく、中枢神経症状を伴う HIV 患者の約 60%の脳脊髄液に 14-3-3 タンパク質が検出され、正常人では全く検出されないことも報告されています。

免疫抗原 : Human 14-3-3  $\eta$  の N 端部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 %  $\text{NaN}_3$  含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8  $^{\circ}\text{C}$  保存 5 年間安定安定性 : 溶解後 -20  $^{\circ}\text{C}$  保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 約 5  $\mu$ g/ml にて使用可能

(ホルマリン固定 パラフィン包埋切片, マイクロウエーブ処理 (10mM クエン酸緩衝液 pH6.0, 10 分)

: ウェスタン・ブロッティング 1~5  $\mu$ g/mL にて使用可能

特異性 : Human 14-3-3 $\eta$  と特異的に反応し、Human 14-3-3  $\beta$  (ベータ),  $\epsilon$  (イプシロン),  $\gamma$  (ガンマ),  $\zeta$  (ゼータ),  $\tau$  (タウ),  $\sigma$  (シグマ)とは反応しません。(ウェスタン ブロッティングにて確認)